

# 投手と捕手は相性をどう語るのか

荒木 孝之（競技スポーツ学科 スポーツ情報戦略コース）

指導教員 豊田 則成

キーワード：違和感 協働 相性の深まり グラウンデッド・セオリー・アプローチ (GTA)

## 1. 緒言

本研究は、「投手と捕手は相性をどう語るのか」というリサーチクエスチョン（Research Question：以下 RQ と称す）を設定し、質的にアプローチした。そこでは、投手と捕手の相性についての語りから発展継承可能で有益な仮説的知見を導き出すことを目的とした。

## 2. 方法

インタビュー調査の対象者となったインフォーマント（Informant：情報提供者。以下、Inf. と称す）は、本学硬式、軟式野球部に所属している投手 6 名、捕手 6 名、計 12 名（Inf. A～L）であった。インタビューマニュアルを基に、一人あたり 1 時間程度（1 対 1 形式）の半構造化インタビューを実施した。

## 3. 結果と考察

本研究は、「投手と捕手は相性をどう語るのか」という RQ の下、投手と捕手の相性の語り

について、違和感の認識、理解を深めるためのアプローチ、お互いの葛藤、信頼の確かめ合い、相性の深まりという 5 つのコアカテゴリーが生成された。そして、＜違和感の認識＞、＜理解を深めるためのアプローチ＞、＜お互いの葛藤＞＜信頼の確かめ合い＞、＜相性の深まり＞と意味づけて語るプロセスを導きだすことができた。

## 4. まとめ

本研究は、「投手と捕手は相性をどう語るのか」という RQ に対して、『バッテリーを組むことによって生じる違和感を認識し、お互いの距離感に気づき、理解を深めるためのアプローチをし、両者のかね合いを図りながら葛藤していく中で、協働の実感を得るに至る。そして、協働を実感することで信頼を確かめ合い、バッテリーとしての相性を深めていくと語る』ということを成果として得た（Fig. 1 参照）。

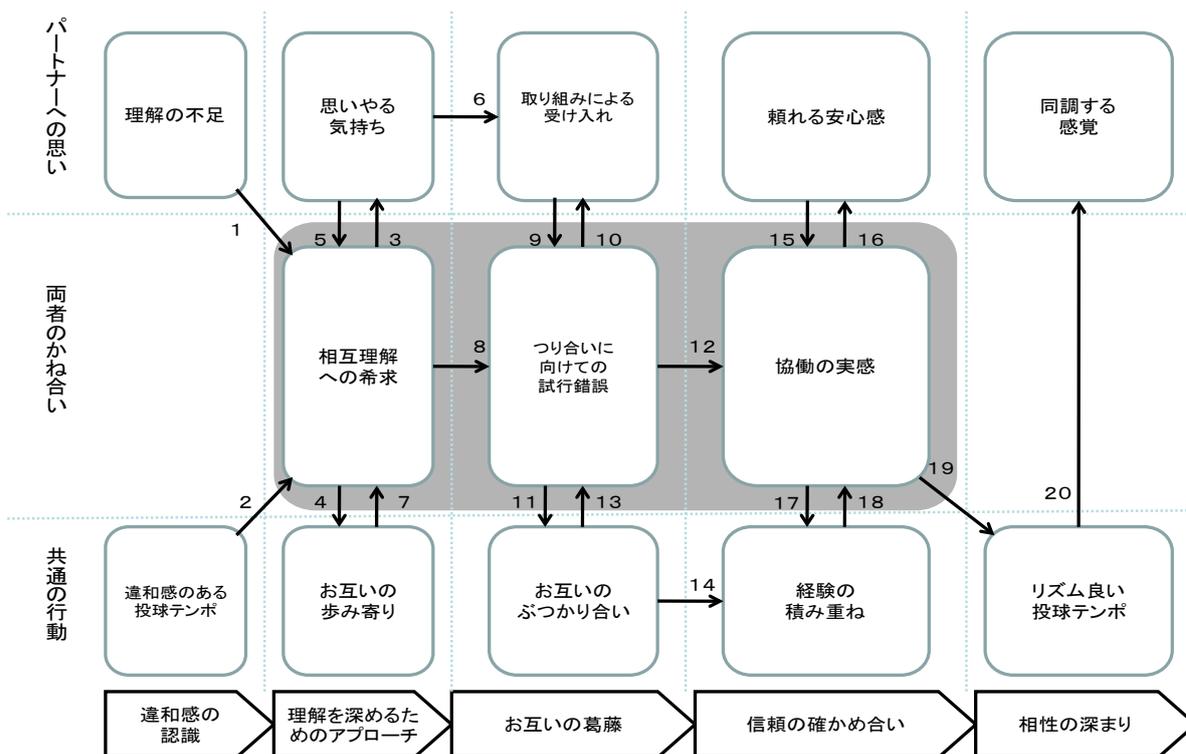


Fig.1 バッテリーの相性が深まっていくプロセス（カテゴリー・グループ関連図）